

小溝泰義 平和首長会議事務総長 メッセージ
第 84 回全米市長会議総会（インディアナポリス市）
国際関係常任委員会 2016 年 6 月 25 日

まず始めに、全米市長会議の皆様が、平和首長会議の活動に関連する決議を長年にわたって採択してくださっていることに対し、厚く御礼申し上げます。

5 月 27 日、オバマ米国大統領が現職大統領としては初めて広島を訪問しました。大統領が平和記念公園で行った感動的なスピーチの一節を御紹介します。

「私の国の物語は簡潔な言葉で始まりました。『万人は平等に創られ、また生命、自由および幸福追求を含む不可譲（ふかじょう）の権利を、創造主から与えられている』というものです。こうした理想を実現することは、国内においても、自国の市民の間でも決して容易ではありません。しかし、この理想に忠実であろうと取り組む価値はあります。これは実現に向けて努力すべき理想であり、この理想は大陸や大洋を越えます。全ての人が持つ、減じることのできない価値。いかなる命も貴重だという主張。私たちは、人類というひとつの家族の一員であるという基本的で必要な概念。これこそ私たちが皆、語らなければならない物語です。だからこそ、人は広島を訪れるのです。」

米国大統領から発せられたこれらの言葉は、広島に被爆者たちが長年にわたり訴えてきたメッセージに相通するものです。それはつまり、我々が共通して持つ「人間らしさ」を想起せよ、という訴えです。言語に絶する悲惨な体験と心理的な葛藤を通して、彼らは「自分たちのような思いを他の誰にもさせてはならない」という信念に至り、誰もが例外なく幸福な人生を送る権利を有していることを訴え続けています。

私は今日ここに、平和首長会議という NGO の代表として参りましたが、平和首長会議の活動は、こうした言葉によって支えられてきました。平和首長会議に加盟する世界の首長たちは、市民の安全と福祉を守る責任を負っています。ゆえに、当然のことながら、彼らは平和がもたらす恩恵を高く評価しています。また、これらの首長たちが、核兵器のない平和な世界を求める被爆者の心に深く共鳴していることも驚くにはあたりません。平和首長会議は、核兵器のない平和な世界の実現という目標の下、結束する超党派の組織です。広島市が会長を務め、現在 161 カ国・地域から 7,063 都市が加盟しています。その総人口は 10 億人を超え、加盟都市数は現在も増加しています。

冷戦終結から四半世紀を経過した今もなお、暴力が蔓延し、紛争の種が絶えない世界に 15,000 発を超える核兵器が存在するという現実を、多くの首長が深く憂慮しています。しかも、仮に意図せずとも、誤解や事故により核兵器が使われる可能性が相当高いことが、記録公開により明らかとなってきました。核テロの危険も無視できないものです。我々がこうした危機的状況を懸念しているのは、いかなる理由であれ、核兵器が使われるようなことがあれば、究極の犠牲を払うことになるのは都市であり、無辜の市民に他ならないからです。自らの都市における核兵器使用を容認する首長など存在しません。我々には声を上げる責任があるのです。

我々は、核兵器のない平和な世界を実現するためには、核兵器の法的禁止が不可欠であると考えます。我々は、平和と安全保障のための様々なアプローチや取組が存在することを認めた上で、こうした相互補完的な取組を連動させ、結集することにより平和の基礎が築かれるという立場を取っています。我々のキャンペーンにおいては、包括性、対話、相互補完性といった要素を重視しています。なぜならば、こうした要素を尊重することが、持続的な問題解決策につながると考えるからです。

平和首長会議では、リーダー都市制度を導入しています。このシステムの背景には、核兵器のない世界実現という共通のゴールを目指しつつ、それぞれの国・地域が優先事項や課題を抱えているという認識があります。我々は、共通目標を掲げながら、お互いの違いや自主性を尊重します。ゆえに、我々は、それぞれの地域のリーダー都市に対し、自らの国・地域の課題解決や目標達成に向け、新しい発想で取り組むことを奨励しています。

我々の共通課題の一つは、今なお多くの国々が、各国の安全保障政策において核抑止に大きく依存しているという状況です。核抑止は、相互不信を前提に、大量無差別大虐殺の脅しで平和を維持しようとするものです。このような制度に持続可能性はありません。そもそも、21世紀の安全保障の課題を考える時、核兵器によって解決できる問題は一つありません。さらには、都市の繁栄などの経済発展に充てられるべき財源や技術的資源が核兵器に費やされています。

原子爆弾は、大戦のさなか開発・使用されましたが、重要なのは、我々が今後どのような未来を希求するのか、ということです。アメリカの建国理念や、民主主義と人権分野でアメリカが果たしてきたリーダーシップを鑑み、アメリカにこそ、核兵器に依存しない新しいアプローチに率先して取り組み、平和と安全保障を実現していただきたいと考えています。

かつて敵対した日米両国について、「同盟を結んだだけでなく、友情も育んだ」とオバマ大統領は広島で語りました。この言葉には、核兵器のない平和な世界構築に向けた協同を含む日米協力の新たな可能性が示唆されています。

立場の違う者同士が協力しようとする時、違いを超えた同じ人間家族としての巨大な共通項に目覚めるはずです。市民社会が連帯を強めていけば、心ある為政者は、相互理解に根差した新たな平和と安全保障のあり方へと方針転換する勇気を得るに違いありません。

そうしたことから、本日、ここに参加させていただけることを大変嬉しく、光栄に思っています。平和のために最も重要なことは、立場の違う人々が共通価値を創り出そうと協働することであると考えます。平和首長会議として、今後、全米市長会議の皆様とさらなる連携を深めることを切に希望いたします。

終わりに、皆様の益々の御活躍と御健勝を祈念いたします。

ありがとうございました。